

普及活動情勢報告（令和5年3月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

令和5年度の栽培に向けて！

・・・令和4年度西土佐支所米ナス部会総会・・・



3月3日、JA高知県西土佐支所で米ナス部会総会が開催され、生産者14名が参加しました。

農業改良普及課は、共同選果時の労働時間削減効果や出荷場整備等に活用できる「こうち農業確立総合支援事業」の紹介とSAWACHIの情報提供を行いました。

農家からは、販売単価を上げるために、部会がPR活動に取り組むことや共同選果体制の確立、現地検討会の持ち方、気象災害時における部会内での支援策等について積極的な意見が出ました。

西土佐の米ナス生産振興のため、今後も共同選果体制確立に向けて支援していきます。

広野・亀ノ川（Hirono・Kamenokawa）地区の将来を見据えて・・・HK集落営農設立総会・・・



3月11日、三原村広野集会所で集落営農組織「HK集落営農」の設立総会が開催され、組合員9名、関係機関6名が参加しました。

三原村広野・亀ノ川地区では、農家の高齢化や後継者不足などから農業生産活動の継続が課題となっていました。そこで昨年10月に設立準備委員会を立ち上げ、今後の集落の農地を守っていく仕組みづくりを農業改良普及課や村役場と連携しながら検討してきました。

組合長からは「今後は集落の農地を段階的に集約し、広野・亀ノ川地区を守っていく」と意気込みが語られました。

今後も組織の経営安定に向けた支援を継続していきます。

みんなの生育の様子はどう？

・・・キュウリ若手勉強会・・・



2月16日、四万十市蕨岡にある若手生産者ほ場で、キュウリ若手現地検討会を開催し、若手キュウリ農家9名、農業公社研修生2名、関係機関職員7名が参加しました。

農業改良普及課から、これまでの生育調査結果と現時点での生育状況について報告しました。その後、ほ場主による効率的な栽培管理の方法や、これまでの管理で特に注意していたポイント等を共有し、生産者同士の情報共有と意見交換を行いました。

今後も若手生産者同士の意見交換の場を作り、自ら考える生産者の育成を目指していきます。

ピーマン栽培でのIoPグループを開始！

・・・ピーマンのIoPグループ説明会・・・



3月8日、四万十市でピーマン生産者を対象に、IoPグループ説明会を開催し、生産者4名、関係機関3名が参加しました。

幡多地区のピーマン生産者3戸がSAWACHI内でグループとなり、ハウス内環境データを共有することで、栽培管理の改善を図っていくことに決まりました。農業改良普及課は、環境データ共有画面の操作方法等について説明し、実際にスマートフォンの画面を操作してもらうことで、共有データの閲覧方法を理解してもらいました。参加者は全員IoPには関心が高く、画面を見ながらセンサーの設置位置等を話題にするなど、盛り上がりました。

今後は、関係機関と協力し、データ共有グループを中心にピーマン部会の活性化を図っていきます。

樹高を低くして作業を楽に！

・・・JA三原支所柚子部会剪定講習会・・・



2月17日、三原村宮ノ川地区でユズ剪定講習会を開催し、生産者10名、関係機関3名が参加しました。

講習会では、農業改良普及課が「収穫時に脚立が必要な樹を2年後は踏台程度で済むように切り下げる剪定方法」や「収穫時に人が樹の中心部に入れる空間を設ける剪定方法」について講習しました。参加者からは「こればあ、低うなったらサンテ掛けが楽になるねえ。」と感心の声が出ていました。

今後は、管理作業の省力化につながる「低樹高化」を推進していきます。

辛くないシシトウを消費者に届けよう！

・・・JA三崎支所シシトウ講習会・・・



3月2日、JA高知県下ノ加江事業所で、シシトウ栽培講習会を行い、三崎支所シシトウ生産者9名、関係職員4名が参加しました。

JAからは、販売実績報告、優秀農家表彰、栽培管理及び展着剤の使用等の説明があり、農業改良普及課は、非辛みシシトウの実証結果及びR5年度の取組について情報提供を行いました。

生産者からは「非辛みシシトウの販売時の値段は？」等の質問があり、この品種の可能性に興味を持っている様子でした。

今後は、県育成品種の非辛みシシトウの栽培面積の拡大に向けて、支援していきます。

高校生よ、農業に触れてみよう！・・・幡多農業高等学校出前授業・・・



2月16日、四万十市の施設ピーマンハウスで、幡多ブロック青年農業士連絡協議会が幡多農業高等学校の生徒への出前授業を行い、高校生26名、生産者1名、農業改良普及課1名が参加しました。

農業改良普及課が、農業研修や就農までの流れについて説明し、施設ピーマン農家からは就農のきっかけや作業内容について説明した後、ほ場で収穫体験を行いました。

生徒からは「農業は作業がしんどいイメージがあったが、環境制御機器の自動化による省力化が進んでいて驚いた」との意見がありました。

今後も高校生が農業に触れる場を設け、農業への関心を高めていきます。

これからは有機農業！

・・・有機栽培ほ場を巡回・・・



3月8日、四万十市の有機栽培ほ場巡回に、普及課職員2名が参加しました。巡回したのは四万十市で組織されている「環境にやさしい農業のための研究会」の生産者3名のほ場です。ここでの生産物は、事務局である「暮らしの会」が生産物をまとめて出荷しています。巡回では、生育や出荷見込みなどの状況を確認し、農業改良普及課は、有機栽培についてのアドバイスを行いました。

四万十市、暮らしの会、生産者の三者での場巡回に初めて参加し、「次回も是非一緒に」との声をいただきました。

今後は、有機農業推進のために、状況把握や生産者との交流を図り、課題の整理・解決に向けた取組を行っていきます。